



高宮だより

安来市立第二中学校
〒692-0037 安来市吉岡町7番地
Tel: 0854-22-2859 Fax: 0854-22-6454



令和5年度（11月17日発行：第8号）

<http://www.city.yasugi.shimane.jp/gakkou/daini-jh/>

または右のQRコードから E-mail: daini.jsc@city.yasugi.shimane.jp

みんなの気持ちを一つにした 合唱コンクール



今年度もアルテピアで合唱コンクールを実施しました。1学期中には各学年で歌う曲を決め、2学期からは音楽の授業で少しずつ練習し始めました。

10月17日のテーマトークでは、生徒全員で「みんなが自信をもって歌うには？」について話し合いました。全校生徒全員が小グループに分かれて話し合い、「音程を外しても笑わない」「一生懸命やっている人を



バカにしない」「自信を持っている人が大きな声を出し、頑張っていて引張っていく」など大切なことを次々に発表してくれました。練習が始まり、徐々に合唱がカタチになっていきました。音楽の時間、放課後の合唱練習を経て、全体リハーサルで各学年の歌声を聴き、自分たちの立ち位置が確認できました。終盤では、他校の合唱の様子もDVDを見てイメージを膨らませていきました。個人として思いを込めた歌声を学級全体でまとめていくことはとても難しいと思います。歌詞の意味を理解し、言葉を大切にしていって歌い、表現力を高めていく試行錯誤の過程を経て、その学級の合唱は完成します。学級の思いが一つになったと感じられる合唱は、歌っている生徒も聴いている人も心地よさを感じます。徐々に完成度が上がっていきました。

そして、11月2日に合唱コンクールの本番となりました。二中も含め、市内すべての中学校がアルテピアを会場にして開催しています。市の援助によって音響の素晴らしい会場で合唱コンクールを実施できることは、生徒たちにとって大変貴重なことであると感謝しています。

さて、当日は大ホールでリハーサルを行った後、14時から始まりました。まず最初に生徒会から合唱コンクールのスローガンの発表を行いました。今回の合唱コンクールのスローガンは、「合笑・楽唱・大笑笑～みんなで楽しく笑って歌って～」です。続いて発声練習を兼ねて全校生徒で校歌を斉唱しました。普段聴き慣れた校歌も会場ではまた違った印象を受けました。

その後、1年生から発表が始まりました。1年生は、元気よく張りのある歌声を響かせてくれました。2年生は体調不良により参加できない生徒も多かったのですが、少ない人数でよく頑張りました。3年生はさすがに完成度の高い合唱を披露してくれました。



今回、3クラスとも本番では一番よい合唱でした。心地よさは感じられたでしょうか？それぞれに評価があると思います。ぜひクラスで振り返りを行い、今後の学校生活や自分たちの成長に生かしてほしいと思います。

最後に今年度の合唱コンクールの曲名、指揮者、伴奏者、ならびに結果についてお知らせします。

■1年生 曲名：「With You Smile」 優秀賞



指揮者：[]さん

✿伴奏者賞

伴奏：[]さん

■2年生 曲名：「花は咲く」 優秀賞



指揮者：小川紘平先生
(代理)

伴奏：[]さん

■3年生 曲名：「絆」 最優秀賞



✿指揮者賞

指揮者：[]さん

伴奏：[]さん

各種大会成績 新チーム頑張っています



【野球部】

■島根県中学校新人野球選抜大会

【2回戦】

対大田一中 6-6 (抽選の結果 準決勝進出)

【準決勝】対高津・益田東中 3-1

【決勝】対大田二中 0-6 準優勝



【ソフトテニス部】

■島根県中学校ソフトテニス団体対抗戦

【2回戦】対大社中 2-1

【3回戦】対出雲南中 1-2

■中国ミズノカップ(中国5県出場)

【予選Dブロック】2位

【1回戦】対八次・十日市中(広島)2-0

【2回戦】対出雲南中2-1

【3回戦】対広瀬中 1-2 ベスト8



【女子バレーボール部】

■出雲地区新人バレーボール大会

【1回戦】対松江二中 2-0

【2回戦】対湖南中 2-0

【準決勝】対東出雲中 0-2 ベスト4



全体会記念講演
演題

「心のトリセツ ～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学～」

黒川伊保子さん



少し時間がたちましたが、8月25～26日にかけて、PTA会長の竹内さんと一緒に広島で開催されたPTA全国大会の広島大会に参加した報告をさせていただきます。2日目の全体会では、黒川さんの上記の講演会を聴くことができました。黒川さんは人工知能研究者、随筆家として活躍中で、毎週金曜日のNHKのラジオ番組にも出演中です。また、人間関係のイライラやモヤモヤに目からウロコの解決策をもたらす著作も多く、「妻のトリセツ」をはじめとするトリセツシリーズは累計で100万部を超える人気作品となっています。

今回は子育て中の親や、教員たちに脳科学の観点からコミュニケーションについて、実例を交えながらお話いただきました。ラジオのパーソナリティを務める黒川さんの話は分かりやすく、聞きやすい声で会場のみなさん、笑いにあふれ、納得の表情でした。講演会が終わった後、竹内さんと「今日の話は良かったですね～」と思いを共有できました。

内容のすべてを紹介することは到底できませんが、家庭から職場まで使える対話の仕方や考え方を教えていただきましたので、心に残った内容を箇条書きにしてお伝えします。

・親が子どもの失敗を未然に防ごうとすると、子どもの脳のセンスは悪くなる。→失敗のスメモ

・大人として子どもの失敗を歓迎する雰囲気3箇条。

①失敗を他人のせいにならない ②過去の失敗をくよくよしない ③未来の失敗をぐずぐず言わない

・人間には脳がとっさに使う回路が2種類ある。①「ゴール指向問題解決型」と②「プロセス指向共感型」。

・人類はどちらの回路も使えるけれど、特に強いストレスがあるとき(危険・不安・不満とかを感じたとき)、女性は共感型を選び、男性は問題解決型を選ぶ傾向にある。なにか問題がある場合、男性は黙って解決を図り、女性はおしゃべりで気づきを起こそうとする傾向がある。

・人の話は共感型で聴くことが大切。話を聴く場合、相手がポジティブであればとにかく

「いいね」「わかるよ」で受ける。相手がネガティブであれば形容詞で返す。「痛かったね」「つらいね」。

・自分が話すときは問題解決型、つまり結論から話す。

・問題解決型で話す場合は否定ではなく、できることを話すことが大切。「〇〇は難しいですが、△△ならできます」等。

・コミュニケーションは共感して心をつかむことが大切である。いきなり「ダメ」では自己肯定感を下げ

てしまう。

・自己充足感、自己肯定感は日本人は低い。「ダメ」「ムリ」は自己肯定感を下げってしまうので避ける。

・心理的な安定性を得るためには、ちょっとしたことを話せる安心感が必要。話そうとすることをやめ

てしまうと、発想は止まってしまいます。何でも話せる安心感のある

雰囲気作りが大切。

・共感型はいろいろな発想が浮かぶ。感情が伴う。



子どもも含め人の話は「共感型」で聴く方が良いと学びました。私は反省することばかりですが、皆さんはどうでしょうか？

生徒たちが毎日行きたい、教師が働きたいと思える学校にするには
二中の業務改善（働き方改革）の進捗状況

今年度、安来二中は県の働き方改革モデル校に指定されています。皆さまも報道等でご存じのように、教職員の勤務状況は改善すべき点が多く、昨今の若者の教員志望離れも進んでいます。これにより、ここ数年島根県でも慢性的に教職員が不足し、深刻な問題となっています。教職員が不足すると、何より子どもたちの教育活動に支障をきたします。また教職員のメンタルヘルスにも影響を及ぼし、休暇を申請する割合が年々多くなっています。島根県では教職員の業務改善を推進していくため、県は2年前から安来市の学校を業務改善のモデル校に指定し、今年度は二中が重点的に業務の見直しをして、その成果を県内に発信する事になりました。ここでは、これまでの働き方改革の方向性と現在までの進捗状況をお知らせします。

今年度の二中の業務改善の視点として二つを掲げています。

①「働きがい(子どもの成長・教職員の成長・他者からの感謝)

②「働きやすさ(労働時間・職場の雰囲気・職場環境等)」



状況が少しでも改善するよう、そして島根県のモデルとなるよう取り組んでいます。どうか取組にご理解いただけますようお願いいたします。

主な取組

①〇授業改善・ICT活用教育の推進 **進行中**

②〇複数担任制 **進行中**

〇家庭学習の見直し **進行中**

〇職員会議、保護者文書のペーパーレス化 **進行中**

済

〇授業体制の充実(TTによる授業) **済**

〇職員室の整備(レイアウト・電話機の増設、モニター設置等)

〇メンター制度の導入(教育相談・生徒指導・学力向上の一体化)

〇ICT機器の充実(各教室にスピーカー・プリンタ設置)

済

〇リモート対応の充実 **済**

〇勤務時間外の電話転送 **済**

〇時差出勤制度(モデル校事業として試行) **進行中**

これまでの取組で、本校教職員の時間外勤務時間が昨年度と比べ月平均で5時間以上減少し、成果が出ています。働き方改革は勤務時間だけに焦点を当てるのではなく、教職員がゆとりをもって、生徒たちに向き合う時間を確保し、授業や教育相談を充実させることが必要です。これにより生徒たちが毎日学校へ行きたいという気持ちをもって登校してくれることが何よりも私達の働きがいであると考え、教職員全員で取り組んでいます。